

「あたりまえ」

第2組 上宮寺 阪下 大介

数年前の事です、いつものように朝起きると私は、とりあえずテレビの電源を入れるのですが、テレビから流れてくる声や音がいつもの半分以下くらいの音でしか聴こえなくて、最初は変な寝方をして、耳の調子がおかしいのかと思い、そのままいつも通りにしていたら、そのうち戻るであろうと思い放置していたのだが、数日経っても元に戻らず、そうこうしているうちに、春のお彼岸の法要の時期になり、準備等でなかなか病院に行けず、結局、法要が終わった後に、耳鼻科に行き診察してもらいました。

病院に行くと先生が、私の耳の中にカメラを入れ、調べてもらうと、少し汚い話になりますが、何と耳の奥で耳垢が乾燥して詰まってしまい、音が聴こえにくくなっていたのだそうです。

その後、マドラーの様な器具を耳のかなり奥まで突っ込んで、ごそごそと、こそぎ取ると摩訶不思議、久しぶりにすっきりと音を聴きとれる事ができました。

音が聴こえるという事は、至極当然のだと思っていたのだが、急に音が聴こえにくくなり、日常生活がほんの一時だけですが不自由になり、その時、自分があたりまえと思っていたことが、実は決して当たり前のことではなく、有ること難して有るのだなど、ハッと気づかされました。

藤代聡磨先生のことばに、このような言葉があります。

「今日である あること難き 今日である。」

私たちは日々、平々凡々と過ごしてきたが、あたりまえのような事柄が、あたりまえでないと、何か考え直す機会を与えて下さった言葉ではないかと私は思います。